千葉銀行賞

蛙屋無二斎様/福岡県/82歳/男性/無職/恩師澤田良友先生にあてた手紙

澤田良友先生　御許へ

拝復、お姉上様の喪中のお葉書戴きました。この頃の喪中を頂く方々の、長寿振りには驚かされます。我が家の方では、長男が85歳で没、次兄が今月で90歳、三兄85歳、私が82歳、弟が次の3月で80歳に成ります。これでも長寿の方だと思っていましたが、遠く及ばないようでございます。一人広島の従兄が新年で百歳に成ると思いますが、2年程前の賀状に、『今年も独唱する予定だ』と書いてあるのに、驚かされたこともありました。

先生がウィーン学友協会で、『第九』を3度も歌われたことは、以前お伺いしておりましたが、とても羨ましいお話でございます。30年程前に私も、サントリーホールと東京文化会館での、いずれも2日連続公演に参加出来たことが、合唱での最高の思い出となっております。69歳の時には、念願のオペラ『AIDA』への、2夜連続出演を果たしております。

私事に成ります。75歳で左目の眼がんを発症以来、コロナへの罹患、リュウマチ系の疾患等大童でございました。諸事情で抗がん剤の投与を回避したにも関わらず、幸い失明と再発転移を免れました。6年後に漸く一息付けたところで、昔誘われていた男声合唱団に、何とか入れて貰ってほゞ2年が経ちました。現在は、来秋11月23日のラストコンサートに向けて頑張っております。ますます厳しくなる酷暑に、（来夏も耐えられるだろうか？）と思いつゝ、杖に頼りながら通っているところでございます。

別紙に、最近書いたエッセイを同封させて頂きます。『中津混声合唱団』のことにも触れております。よろしければご覧下さい。では向寒の砌、くれぐれもご自愛下さいませ。

敬具

平成7年12月13日

赤松　菊夫